



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第15号

2023年12月27日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

たくさんのSPさん！たくさんの子どもたち！

12月27日（水）、「2023冬休みわくわく算数教室」の4日目です。あっという間ですね。連日参加している子どもたちの中には、少し疲れが見えてきた子もいましたが、SPさんはなんのその。今日も元気に、そして最高の笑顔で算数教室に臨んでくれました。エネルギッシュなSPさんたちのパワーで、子どもたちも自然と良い顔になっていました。

今日の午前の部が、この5日間の中でSPさんも子どもも参加人数が一番多い日でした。新型コロナウイルスの影響もあり、近年はとても落ち着いた雰囲気の算数教室になっていましたが、今日はコロナ禍以前のような活気あふれる算数教室になりました。SPさんと子どもたちの楽しそうな声があちこちから聞こえるのがなんだか懐かしくもあり、嬉しくもありました。今日も多くの方が参観に来てくださいましたが、皆さん口々に「この雰囲気、久しぶりですね！」「とても良い雰囲気ですね。」と仰っていました。



今日の司会は、午前の部が伊藤響SP、午後の部が川端SPでした。午前は特に人数が多く、伊藤SPにとっては大挑戦だったと思います。まず、チャレンジできるのがすごい！やってみなければ成功も失敗も経験できません。経験は何よりの宝です。伊藤SPも川端SPもとてもよく声が通っていました。この「声が出せること」は大きな武器になるはずですよ。

午前の部が終わり、伊藤SPに、「今日、大変だったね。ナイスチャレンジ！司会やってみてどうだった？」と聞いてみたら、「難しかったです。中村先生は、大きな声を出していなかったのに、なんで子ど



もたちが静かになったんだろうと思いました。(※途中、今日の注意事項を中村浩二先生が話される場面がありました。)」と話してくれました。その「なんで？」をぜひ考えてみてください。動画を見返してみてください。そこにはいろいろなテクニックがあるはずです。同時に、自分の“癖”を見つけてみてください。“癖”をなくすよう意識していくと、子どもたちはグッと聞きやすくなると思います。

この「SP通信」でもたびたび書いていますが、SPさんたちにはぜひ疑問を持って先生や子どもたちを“観て”ほしいと思います。今日の算数教室は参加人数が多くとても賑やかでしたが、その中でもすごく集中して問題に取り組んでいた机がいくつかありました。「なぜ、集中して取り組めるのか」「担当していたSPさんは、どのような工夫をしていたのか」疑問を持って、少し周りを見渡してみてください。SP控室で話してみてください。疑問を持って“観る”ことがみなさんの将来につながると思います。



SPさんの“楽しい”が、子どもたちの“楽しい”につながります。“算数教室に来るのが楽しい”から、“算数が楽しい”に。SPさんの腕の見せ所です！



SP控室の雰囲気もとてもよく、いろいろな話が飛び交っていました。「これってどうやって教えたらよかったんだろう」「こうしたらいいんじゃないかな？」教師を目指すみなさんだからこそ、同じ志をもっているからこそ、熱く語れます。最高の仲間です。